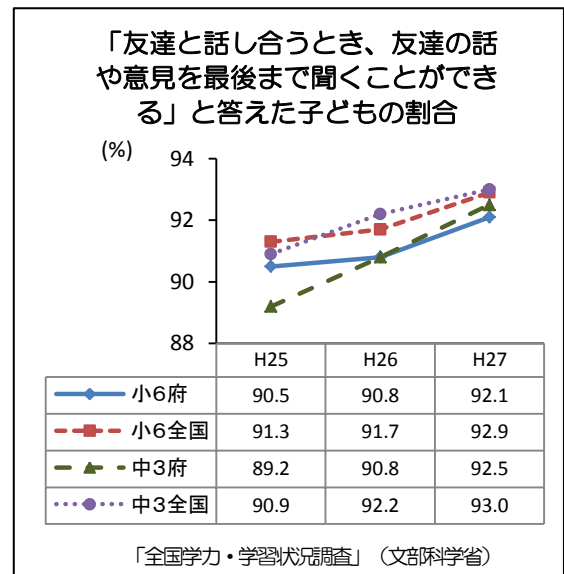
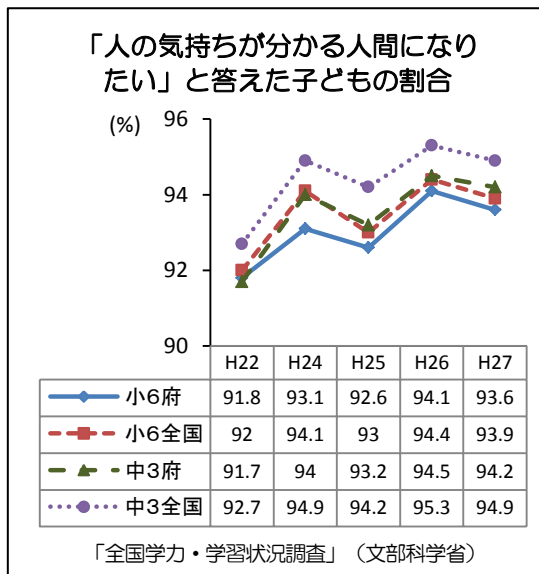
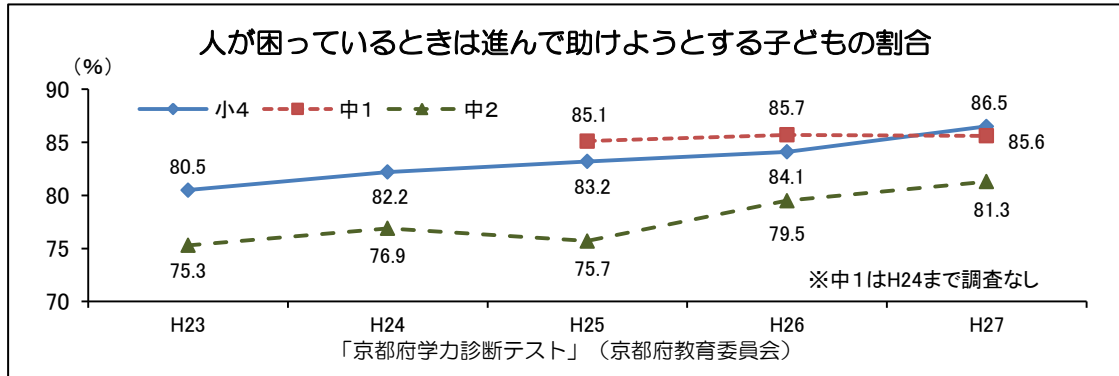


## 重点目標 2

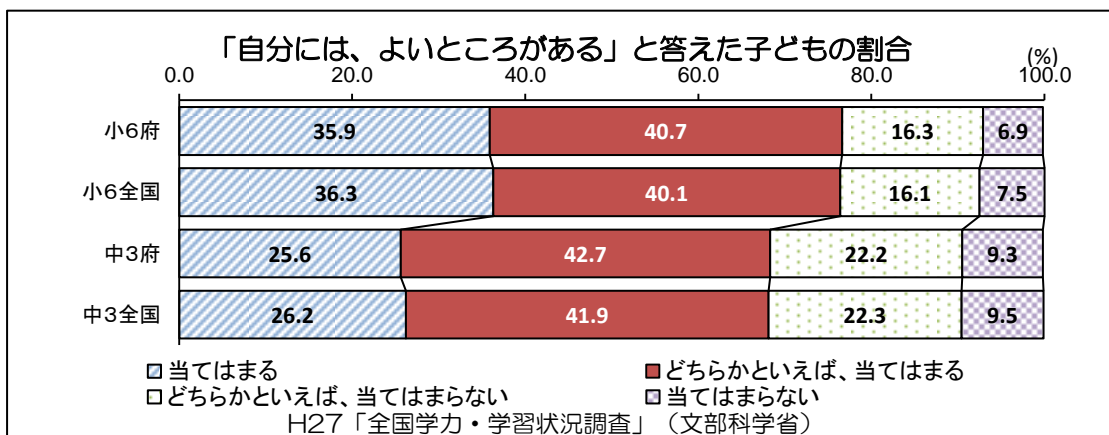
## 人を思いやり尊重する心など、豊かな人間性をはぐくむ

### 現状と課題

- 「人が困っているときは進んで助ける」、「人の気持ちがわかる人間になりたい」、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」と回答した子どもの割合は概ね増加傾向にあり、人を思いやり、尊重する心がはぐくまれてきています。



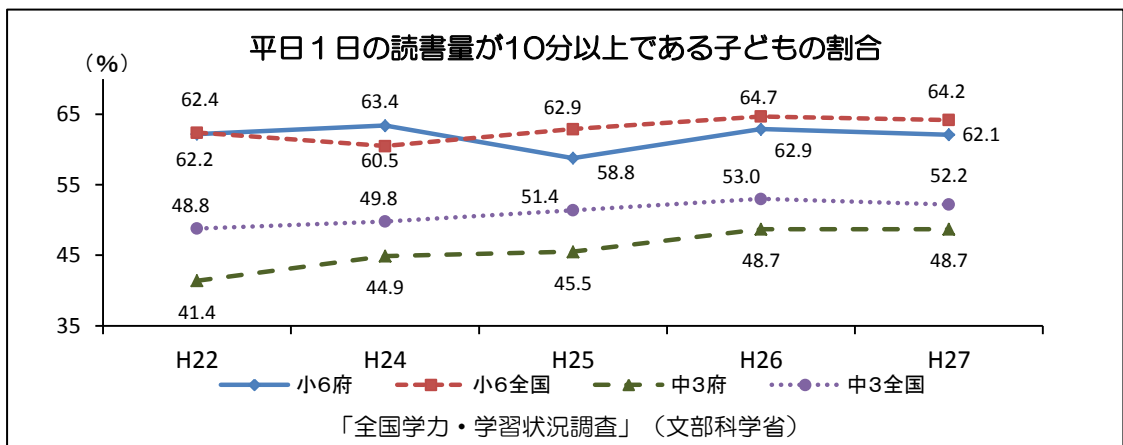
また、平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果によると、「自分には、よいところがある」と回答した子どもの割合は、全国平均と同様に子どもが成長するにつれて減少する傾向にあります。



人の役に立った、人から感謝された、人から認められた、という「自己有用感」とともに、これに裏付けられた、自己に対して肯定的な評価を抱く「自尊感情」をはぐくむことが必要です。

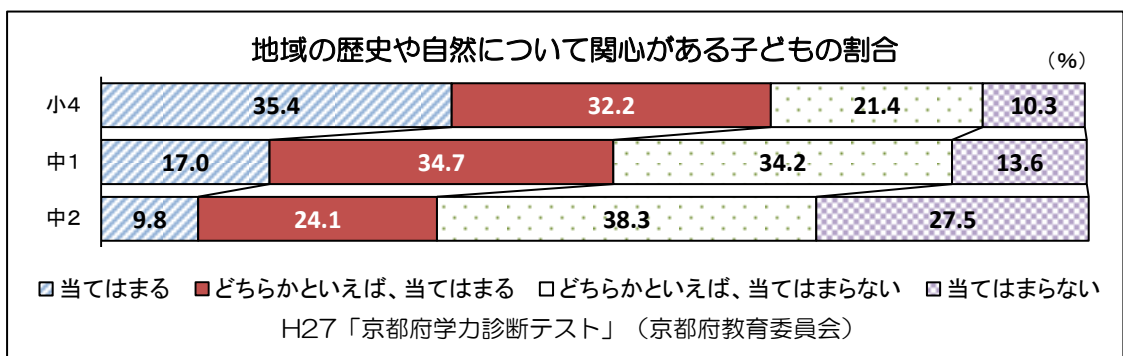
- また、同調査では、小学校6年生、中学校3年生とも、平日の1日の読書量が10分以上である割合は全国平均と比べると低い状況にあります。増加傾向にあり、その差が縮まっています。

朝の読書などの一斉読書の時間を週1回以上設けている学校は、小学校で約95%、中学校で約85%と高い数値を示しています。読書は感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにするものであり、子どもが読書に慣れ親しむ取組が必要です。



- 平成23年度からはすべての府立高校で茶道の授業に取り組むなど、すべての小・中学校、高等学校で伝統や文化を体験する授業を実施しています。しかし、平成27年度「京都府学力診断テスト」の質問紙調査の結果によると、「地域の歴史や自然について関心がある」と回答した子どもの割合は、小学校4年生に比べ、中学校1年生では減少しています。

府内の豊かな自然や歴史、伝統・文化など、本物を体験し、本物から学ぶことを通して、その素晴らしさに気付く取組が必要です。



## 基本の方針

京都府内にある豊かな自然や歴史、伝統・文化など先人が積み上げてきたものを継承し、新しい文化を創造するためには、これらを学び知るだけでなく、自然、人、社会とつながり、共生する力を身に付けることが大切です。

そのため、体験活動や読書活動などを通して人を思いやり、尊重する心、感性や情緒、創造力をはぐくみ、豊かな人間性を育成することができるよう取組を推進します。

## 主な目標指標

目標指標	基準値（出典等）	目標
<b>人が困っているときは進んで助けようとする子どもの割合</b> （「人が困っているときは、進んで助けていますか」という質問に対し「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合の計）	小 4:86.5% 中 1:85.6% / 中 2:81.3% 京都府教育委員会「京都府学力診断テスト」質問紙調査（27年度）	増加させる
<b>地域の自然や歴史について関心がある子どもの割合</b> （「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか」という質問に対し「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合の計）	小 4:67.6% 中 1:51.7% / 中 2:33.9% 京都府教育委員会「京都府学力診断テスト」質問紙調査（27年度）	増加させる
<b>自分には、よいところがあると思う子どもの割合</b> （「自分には、よいところがあると思う」という質問に対し「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合の計）	小 6:76.6% / 中 3:68.3% 文部科学省「全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙」（27年度）	増加させる
<b>朝の読書などの一斉読書の時間を週1回以上設けている学校の割合</b>	小:95.8% / 中:92.6% 京都府教育委員会「教育課程実施状況調査」（26年度）	100%
<b>高校生伝統文化事業参加生徒数（年間/延べ人数）</b>	7,289人 高校生伝統文化事業の実績による(26年度)	7,800人

## （4）人を思いやり、尊重する心の育成

**京都の力を活かした道徳教材を充実するとともに、学校や地域でのスポーツなどの集団活動、人と人との豊かな交流活動を推進するなど、人を思いやり、命を大切にし、礼儀や作法を重んじる心をはぐくむ取組を充実します。**

- 「心の教育」先進地として、生き方応援メッセージ集「京の子ども 明日へのとびら」（平成19年3月発行）や教員用指導資料「道徳教育の進め方 京都式ハンドブック」（平成25年3月発行）の活用を更に進めるなど、すべての学校で京都ならではの道徳教育を積極的に推進します。
- 高校生と乳幼児、小・中学生と高齢者の世代間交流や、学校や地域でのスポーツなどの集団活動などを促進することにより、人を思いやり命を大切にす心、協調性や忍耐力、礼儀や作法を重んじる心をはぐくむ取組を推進します。

## (5) 豊かな感性、情緒の育成

---

**本物の自然に触れる体験活動を充実するとともに、地域の専門家の指導を受けて古典や芸術に親しむ機会を拡充するなど、豊かな感性や情緒をはぐくむ取組を充実します。**

- ものづくり体験活動や自然・文化体験活動など、子どもの感性や情緒、創造力を育成する取組を推進します。
- 11月1日の「古典の日」を中心に、古典に触れ、親しむ機会を拡充するなど、人類の偉大な遺産である古典に学ぶ取組を推進します。
- 小学校の音楽・図画工作・書写などの授業を専門性の高い人が指導するなど、文化の薫りのある教育を推進します。
- 子どもが素晴らしい音楽や演劇などに直に接したり、憧れのスポーツ選手と一緒に活動したりするなど、子どもの様々な夢の実現を応援する取組を推進します。(15)に再掲)

## (6) 読書活動を通じた創造力、表現力の育成

---

**幼い頃から本に触れる機会を増やし、読書に親しむことを通して、感性を磨き、創造力や表現力などをはぐくむ取組を推進します。**

- 家庭や地域社会と連携し、乳幼児への読み聞かせや「親子読書」の啓発など、子どもの読書活動を推進し、創造力や表現力などを育成する取組を推進します。
- 「こども読書の日」の啓発や読書ボランティアとの連携を促進し、子どもの読書に対する興味や関心を高めるための取組を推進します。
- 府立図書館において、学校支援セット貸出の充実を図るとともに、施設見学や所蔵資料を活用した調べ学習を受け入れるなど、子どもの読書活動を推進する取組を充実します。

## (7) 京都の伝統と文化を守り、受けつぎ、新たな文化を創造する心と技の育成

**世界に誇る貴重な文化財の保存と活用を図るとともに、日本の伝統文化や礼儀・作法などの生活文化、京都府内各地域の伝統と文化を守り、受けつぎ、新たな文化を創造する心と技の育成に向けた取組を充実します。**

- 京都の自然・歴史・文化・産業などを学ぶ機会の充実を図るなど、次代の「京都」の構築に向けて行動できる人材を育成する取組を推進します。
- 専門家による文化系部活動への指導や、他校種と交流する機会を充実するなど、伝統・文化の次世代への継承を図る取組を推進します。
- 茶道、華道、香道、和歌をはじめ、きものや伝統工芸品など日本の伝統文化の学習を進めるとともに、地域に伝わる民俗芸能を守り受けつぐ取組を推進します。
- 京都の伝統や文化を学ぶための教員用の教材を活用した研修を行うなど、すべての教員が京都の伝統や文化を教えられるよう支援する取組を推進します。
- 文化財の専門家による出前授業や見学会など身近な文化財の大切さを学ぶ機会を充実するとともに、府内各地域の文化財を紹介する教材を作成するなど、世界に誇る貴重な文化財を保存し活用する取組を推進します。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催による訪日旅行者数の増加を見据え、観光ガイドや、茶道や華道を一緒に体験するなど、京都の伝統・文化を発信する取組を推進します。(20)に再掲)

